

『 発達障害に関する支援者講座 9月11日 』

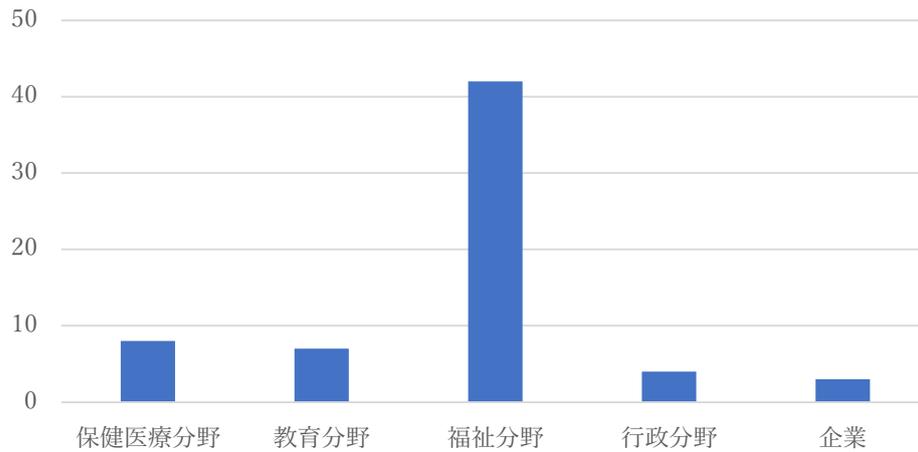
第1回 講演『発達障害のある子どもたちへの支援
～子どもをみるということ～ 』

講師：久郷 悟氏

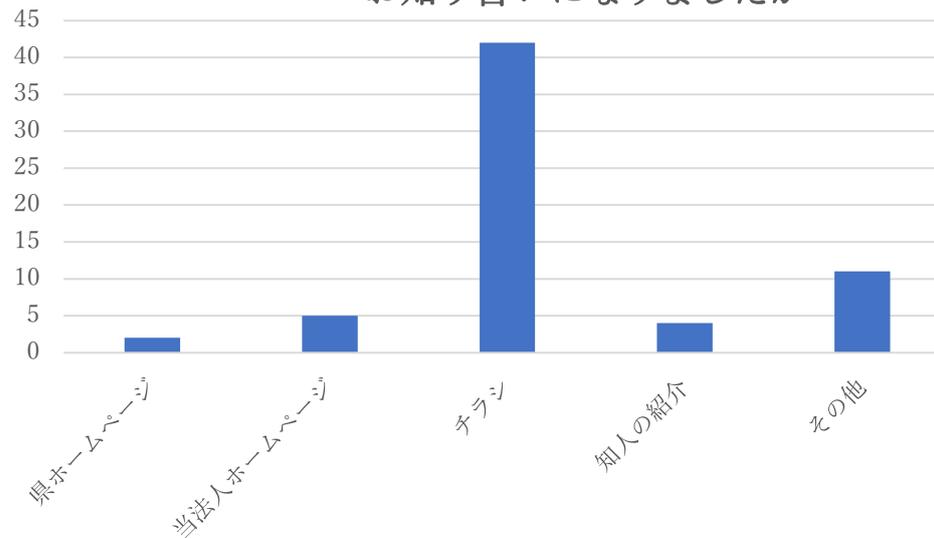
参加者：77名

アンケート回収率：83%

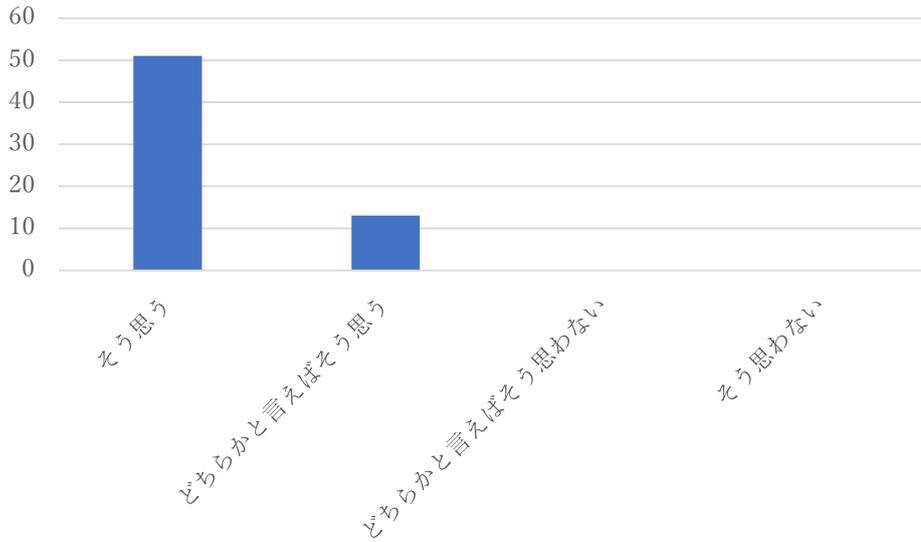
どのような立場でご参加いただきましたか



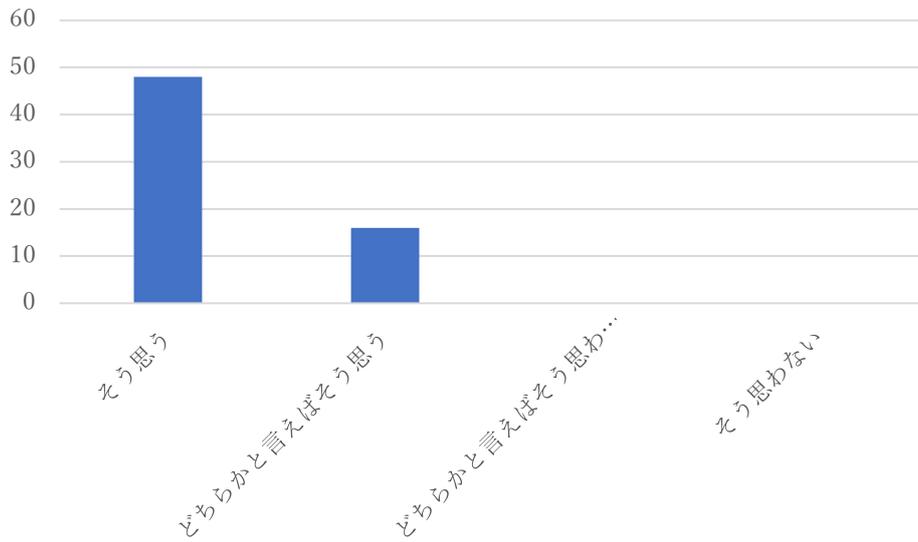
本講座をどのような方法で
お知り合いになりましたか



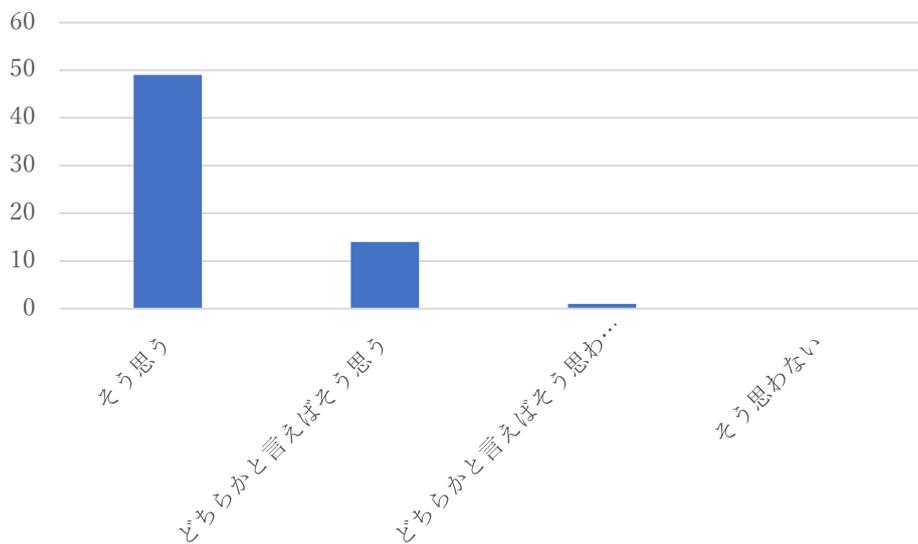
講演内容に対する理解が深まった



日常生活（業務）に取り入れたいと思った



家族・友人・同僚に伝えたいと思った



◎その他ご感想など

*アンケートの中から抜粋し、個人が特定されないような形で要約させていただきました。

・現在、関わっている子どもたちは就学前の子供たちなのですが、日々の様子から得意なこと、苦手なことの理解に努めていますが、本日お話をきかせてもらい、外に表れている行動のもとになっているもの（感情や特性など）はどういうものがあるのかを的確に把握する難しさを感じています。子どもたちの根本にある願いや思いへの理解のためにも学び続けたいと思いました。

・地域の学校で、一緒に学ぶことが、あたり前であるように、個々の支援の必要性や大切さを、どの学校でもとりくまれるべきであると思いました。教職員ひとりひとりの意識の持ち方と共に。ありがとうございました。

・事例を混じえてわかりやすくお話頂け、理解が深まった。「やんちゃな子らは、生きるエネルギーがある。ただ発達に問題のある子はそのエネルギーがない可能性がある。」という言葉が印象的でした。

・実際に、演習を通し文字・文章の読みにくさを体験する事で、普段関わる児の困り感、つまづきへの納得ができよかったです。挙げられた事例の中にも、思い当たるものが多くあり今日の学びを支援に活かしていければと思いました。

・日々の業務の中で、学校と連携して、子どもをサポートすることが多い、今日、色々な工夫ができること、やり方次第であることが改めて分かり、それをまた保護者・関係者に伝えていきたいと思う。

・とてもわかりやすく、子供達の立場でお話し下さり理解が深まりました。学校生活でのこまり事や、支援方法など、事例を具体的で共感できました。

・久郷先生の講演会は親の立場として何度もお聞きしましたが、今回は支援者としての立場として聞きました。また違った視点でみることができ、現場でも心づもりができるように考えていけたらと思います。ありがとうございました。

・実際の子供達の様子、学校側の様子も取り入れながらお話頂いて良かった。

その子の困り感がどこからくるのか？困り感にも本人が気づいていない場合も多いことを学校側、ご家族にもお伝えできたらと思います。

・成人施設勤務ですが、新しく入所される方に発達障害とされる方が増えているため基礎を学びたいと思い受講しました。対応に苦慮することも多く、本人が何に困っているのか？を改めて考えるきっかけにしたいと思います。利用者を見ていると、子どもの頃に適切な支援を受けられなかったのかなと思っており、本日のお話を伺って、支援をしてくれる人の存在は重要であると改めて感じました。

・子どもをみることで支援者の視点をかえるということが大事だと感じました。子どもにとってわかりやすさ、どうすればよいかというひきだしがたくさんもてると良いと感じます。また、柔軟な対応ができるよう学校の体制が広まっていくといいなと思います。